

眼窩内脂肪腫のみられた犬の1例

西岡佑介¹⁾ 新家俊樹¹⁾ 山田裕貴¹⁾ 金井孝夫²⁾ 小川 高^{1)†}

1) 静岡県 開業 (〒427-0043 島田市中溝4-14-1)

2) 東京女子医大 (〒162-8666 新宿区河田町8-1)

(2011年8月5日受付・2011年11月9日受理)

要 約

13歳雑種犬に左眼の第三眼瞼及び下眼瞼結膜の腫脹がみられ生検により脂肪組織が得られた。超音波及びCT検査で腫瘍は眼窩内深部から下眼瞼結膜下へ広がっていた。外科的牽引除去された組織は脂肪腫と病理診断され、良好な予後が得られた。——キーワード：犬，脂肪腫，眼窩内腫瘍。

----- 日獣会誌 65, 221～223 (2012)

犬の眼窩内には多様な腫瘍が発生し、これまでに少なくとも27種類の眼窩内腫瘍が報告されているが [1, 2]，特に骨肉腫，肥満細胞腫，線維肉腫，神経線維肉腫など悪性腫瘍の発生が多く，周囲組織への浸潤や遠隔転移もめずらしくない [3, 4]。良性腫瘍としては線維腫，髄膜腫，脂肪腫などが報告されているが [1, 2, 5]，中でも眼窩内脂肪腫の発生はきわめてまれである [2]。今回犬の眼窩内に発生し，さらに結膜下から第三眼瞼へ突出した脂肪腫を診断したのでその詳細を報告する。

症 例

症例は13歳齢，未避妊雌，雑種犬で5年前に左眼の第三眼瞼腺脱出の治療歴があった。今回は2年前より緩徐に進行する左眼瞼の腫脹を主訴に来院した。身体検査では左眼球を腹側から覆うように第三眼瞼及び下眼瞼結膜がそれぞれ腫脹していた (図1)。眼科学的検査では威嚇瞬目反応，対光反射及び行動観察での視覚に異常は認められず，左眼に角膜炎，下眼瞼結膜の浮腫及び流涙症所見が認められた。左眼内圧は19.3mmHgで眼底像に異常はみられなかった。超音波検査では眼窩の内側に結膜下から眼窩後壁にいたる広範囲の高エコー構造物が認められた (図1)。CT検査では，CT値の低い領域が左眼球の内側面から腹側面を覆うように広がって眼窩後壁にいたるまで多くの部分を占拠していたが，骨や視神経への浸潤は認められなかった (図1)。オキシブプロカイン塩酸塩点眼による表面麻酔下で第三眼瞼の腫脹部位の一部を生検材料として採取し，病理組織検査を行ったところ，腫瘍は脂肪組織であることが示された。

手術：左下眼瞼結膜の腫脹部位を眼瞼と平行に5mm切開して結膜下の腫瘍の一部を牽引し，眼球及び周囲組織から鈍性に剝離しながら眼窩内の腫瘍及び付着する脂肪組織を可能なかぎり切除した (図2)。腫瘍は被膜に包まれており，結膜とは容易に区別できた。第三眼瞼は腫脹部位を切開し，同様に腫瘍を切除した。術後はオフロキサシン点眼及び内服を21日間継続した。

病理所見：摘出腫瘍は，柔らかく白色調を呈していた。その断面も同様に腫瘍の周囲組織との境界は明瞭であった。組織標本上では成熟した脂肪細胞の増殖がみられ，時に線維組織の発達もみられた (図3)。高倍像では，それぞれの脂肪細胞はほぼ同様の大きさで，核に異型はなく，悪性の所見はみられなかった。

術後45日の眼科学的検査では眼球周囲に腫脹はなく超音波検査で眼窩内に腫瘍の再発は認められなかった。また視覚行動及び眼科検査に異常はみられなかったため，以後長期経過観察とした。

考 察

眼窩内脂肪腫では脂肪組織の腫瘍性増殖を疑うような病変の増大を認めるが，正常脂肪組織の解剖学的位置異常である脂肪体逸脱では病変の大きさに変化は見られない [6, 7]。今回の症例は，切除生検では脂肪細胞のみが得られたものの，2年前から緩徐に病変が拡大したこと，超音波検査で左眼眼窩内側における広範囲高エコー領域が，CT検査でも左眼球内側面から腹側面を覆い眼窩後壁にいたるCT値の低い占拠性病変像がみられたことから，腫瘍性疾患が疑われた。摘出腫瘍の病理検査で周囲

† 連絡責任者：小川 高 (小川動物病院)

〒427-0043 島田市中溝4-14-1 ☎0547-37-3280 FAX 0547-37-0952 E-mail : oah-ogawa@dogs-cats.jp

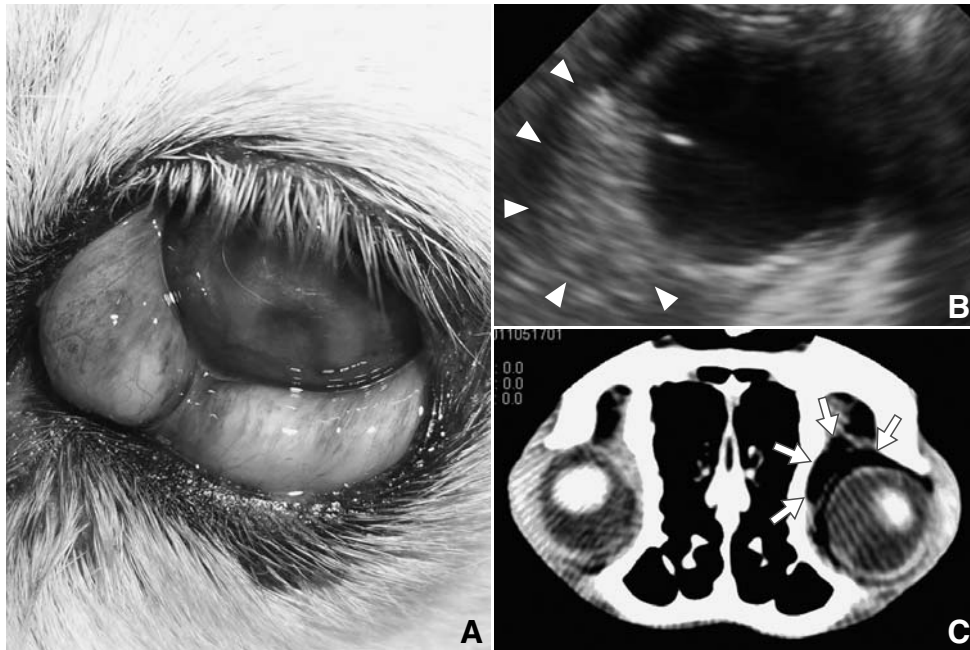


図1 A：左眼第三眼瞼および下眼瞼結膜の腫脹
 B：超音波検査では眼窩の広範囲に高エコー構造物（矢頭）を認めた
 C：CT検査では眼窩後壁に至るCT値の低い占拠性病変（矢印）を認めた



図2 術中所見
 結膜を切開すると、腫瘍と周囲組織との境界は明瞭で、剝離は容易であった。腫瘍を牽引して切除した。

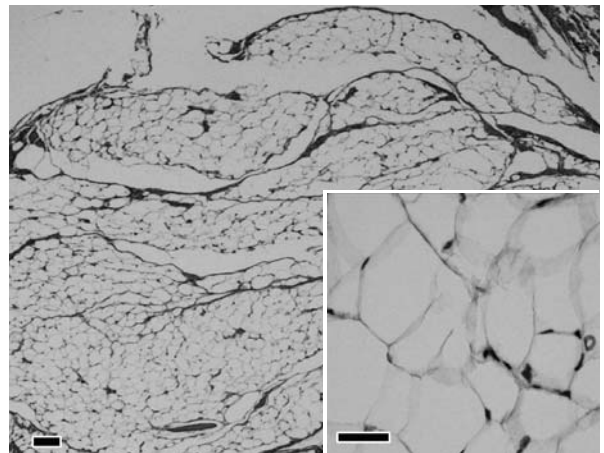


図3 病理組織学的検査では成熟した脂肪細胞の増殖と腫瘍辺縁部に線維性被膜を認めた（Masson 染色 Bar = 100 μ m）.
 挿入図：高倍像。核の異型や核分裂像は認められなかった（HE 染色 Bar = 100 μ m）.

組織との境界明瞭な脂肪組織の増殖をみとめ、脂肪体逸脱ではなく脂肪腫であることが示された。本症例では5年前に第三眼瞼腺突出の整復が実施されているが、今回の病変との関係は不明であった。

犬における眼窩内脂肪腫の発生はきわめてまれで[2]、その臨床像の詳細は不明であるが、今回の症例のように超音波及びCT検査を併用することで脂肪腫の存在と規模を判定し、手術により脂肪腫を牽引除去することで眼球機能を温存できる可能性が高いものと考えられた。

引用文献

- [1] Kern TJ : Orbital Neoplasia in 23 dogs, J Am Vet Med Assoc, 186, 489-491 (1985)
- [2] Williams DL, Haggett E : Surgical removal of a canine orbital lipoma, J Small Anim Pract, 47, 35-37 (2006)
- [3] Attari-Soussay K, Jegou JP, Clerc B : Retrobulbar tumors in dogs and cats : 25 cases, Vet Ophthalmol, 4, 19-27 (2001)

- [4] Mauldin EA, Deehr AJ, Hertzke D, Dubielzig RR : (2000)
Canine orbital meningiomas : a review of 22 cases,
Vet Ophthalmol, 3, 11-16 (2000)
- [5] Hendrix DV, Gelatt KN : Diagnosis, treatment and
outcome of orbital Neoplasia in dogs : a retrospective
study of 44 cases, J Small Anim Pract, 41, 105-108
- [6] Boydell P, Paterson S, Pike R : Orbital fat prolapsed
in the dog, J Small Anim Pract, 37, 61-63 (1996)
- [7] Monner J, Benito JR, Zayuelas J, Paloma V, Castro
V, Serra JM : Transconjunctival herniation of orbital
fat, Ann Plast Surg, 41, 658-661 (1998)

Orbital Lipoma in a Dog

Yusuke NISHIOKA*, Toshiki ARAIE, Yuki YAMADA, Takao KANAI and Takashi OGAWA†

* *Ogawa Animal Hospital, 4-14-1 Nakamizo, Shimada, 427-0043, Japan*

SUMMARY

A 13-year-old, mixed-breed dog presented with swelling of the left nictitating membrane and lower palpebral conjunctiva. An excisional biopsy suggested a diagnosis of lipoma. Orbital ultrasonography and computed tomography showed that the mass was extended from the posterior part of the orbit to the subconjunctival region. The mass was removed by surgical traction and resection. The diagnosis of lipoma was made by histopathological examination, and recurrence has not been detected to date.

—Key words : dogs, lipoma, orbital neoplasia.

† *Correspondence to : Takashi OGAWA (Ogawa Animal Hospital)*

4-14-1 Nakamizo, Shimada, 427-0043, Japan

TEL 0547-37-3280 FAX 0547-37-0952 E-mail : oah-ogawa@dogs-cats.jp

J. Jpn. Vet. Med. Assoc., 65, 221 ~ 223 (2012)